

## 研修会「親なき後」をみんなで支える

令和2年11月19日

奈良県社会福祉センターにおいて開催されました。

約80名が参加し、「親なき後」への関心の高さがうかがえました。

社会福祉法人奈良県手をつなぐ育成会より2人の講師をお招きしました。日中活動支援や相談支援で、高齢化していく障がいのある人と向き合っておられ、その実態と思いと願いを語られました。両親が他界しても今まで住み慣れた家に居続けたいという本人の思い、ひとりになって急にグループホーム等に馴染めずにいる本人の姿の話は、身につまされました。

障がいのある本人の今までの生活スタイル、生きてきた背景を大切にこれからの未来に寄り添っていききたいということ。親の思いを伝えるための話し合い（家庭訪問）を重視しているということ。今後に生かせる本人の情報をもらいたいので「ハート&ハート」の記入を進めてほしいということ等の話は老いていく私達親を元気づけるものでした。本人と本人を取りまく支援者との信頼関係を親が生前に作っていくことが大切だということを確認した研修会でした。



## 参加者の感想



- ・親なき後、支援員との連携、本音で話し合える機会が大切。家庭訪問でのよりきめ細かく支援考えてもらってること、うれしく思います。体力・気力、衰えていく中、健康の重要性を痛切に考えなければ・・・と思います。不安だけでなく前に進む大切さも感じさせてもらいました。
- ・子供も親も、障害有無、程度、あらゆるものを超えて、年を取っていくのは平等だと、ひしひし感じました。妥協もある程度大事だし、仕方ないこともたくさんありますが、本人のイキイキさをできれば失うことのない将来を考えないと。
- ・親なき後ではなく、今から本人の将来について（暮らし）本人と共に考え、サービス利用計画などを十分に見直し検討し、体験等を重ねて多くの人（支援者）とつながる必要があると思いました。
- ・40歳を過ぎると、本人の状態も変化します。白髪やつまづき等々、親が経験していることをものすごいスピードで追いかけてきます。支援者の方に出来るだけ伝えられる信頼関係を築いていきたいと思います。
- ・「親の安心のために住まいを選ぶのではなく、本人の気持ちを大切に」という言葉が心に残っています。



## 全育連キャラバン隊研修 令和2年12月3日（木）13:30~15:30

又村あおいさんより、「啓発キャラバン隊活動は自治体が進めるべき知的障害啓発理解事業に当たる」ことなど説明いただきました。また、全国で先駆的に活動されているキャラバン隊の皆さんからは、コロナ禍でも、また初心者でも実践しやすいプログラムの紹介がありました。「失敗してもいい（参加者は失敗なんて気づかない）！ 恐れずに回数をこなすことが大事」との言葉に勇気をもらいました！



交通費も0円、自宅できつろぎながら、子どものお迎えにもサッと行けて♡ZOOMだから参加できた方、多かったです。